

## 第6回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 議事録（概要）

### 1 日時

令和4年（2022年）12月21日（水）14時30分～16時30分

### 2 場所

県庁新館2階 職員研修室

### 3 出席者

八幡英幸委員、出川聖尚子委員、野口泰喜委員、藤本英行委員、足立國功委員、大平雄一委員、音光寺以章委員、吉永公力委員、本田裕紀委員、原公德委員、作田潤一委員、牛田卓也委員、田中篤委員、池田廣委員、田中万里委員、松島雄一郎委員、夏木良博委員（計17人）

### 4 概要

#### （1）開会

#### （2）出席者紹介

事務局が出席者紹介をし、設置要項第6条第2項の規定に基づき、本会が成立することを報告した。

#### （3）日程説明

事務局が会次第の説明をした。

#### （4）会議の公開・非公開

八幡会長が運営要領の第5の規定に則り、会議の公開・非公開について諮った。委員から異議なしで公開を決定した。

#### （5）議事

- 第5回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会の論点整理等について
- 入学者選抜制度の今後の方向性について

#### <配布資料>

- ・第6回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 会議次第
- ・参考資料「4県（宮城県、青森県、静岡県、広島県）の選抜方法の例」
- ・「県立高校の未来を考える ～そのあり方と魅力づくり～」

#### 【事務局】

資料1により第5回検討委員会の論点について説明した。

#### 【事務局】

第5回検討委員会で質問があった4県（宮城県、青森県、静岡県、広島県）の制度変更に係る周知期間と制度変更後の一部変更について、近年制度変更を行った宮城県、広島県及び青森県の状況として、宮城県及び広島県は約3年、青森県は1年の周知期間を設けたこと、制度の一部変更を行った県はないことを説明した。また、前回説明した熊本市立高校の令和6年度入学者選抜の変更点及び実施予定である面接について補足説明した。

【八幡会長】

設置要項の第2条にあるとおり協議依頼事項に応える形で協議結果を教育長に報告することになっている。前回、私から委員の皆様、事務局にこれまでの論点を踏まえ、たたき台となる新制度の骨子案を作成していただき、それを検討するという手続きを提案し、了承いただいた。本日は、事務局に作成いただいた資料をもとに、最終の報告書につなげるまとめの段階の議論をしていく。現行の入学者選抜制度の現状と課題、入学者選抜制度の改善という二点について審議いただきたい。

【事務局】

資料3により現行入学者選抜制度の現状と課題について説明した。

【八幡会長】

これまでの審議で出た意見を整理してまとめられている。ここに追加すべき意見や気になる点などあれば出していただきたい。

【田中万里委員】

進路決定の時期が郡部と都市部で異なっているようだが、進路決定の時期は学校の基準で決めるのか。

【原委員】

各学校で多少のばらつきはあるとしても、願書提出と受付開始日、そこから遡って願書の配布、教育相談とすると、大体今頃の時期がどの学校も願書を揃えている時期である。願書提出開始日に向かうまでの期間は、学校によって多少のずれはあるかもしれないが、大きな違いはない。

【夏木委員】

保護者からは、入試時期が今より遅くなった場合、スポーツを中心とした特質的人材の県外流出や私学への流出を懸念する声がある。プロを目指しているような保護者からは、これでは県立高校には行けないという鋭い意見もいただいた。

【作田委員】

県外の高校、県内の公立高校、私立高校では入試時期が少しずつずれているが、進路決定する時期は大体今頃の時期なので、県立高校の入試を今より遅くしたからといって県立高校以外に行ってしまうということはないのではないかと。

【八幡会長】

現状と課題についての意見というよりは、入試時期を変更した場合についての懸念と思われる。入学者選抜制度の改善についてのところも併せて見ていただいた方が議論しやすいのではないかと思います。

【事務局】

資料4により新制度の骨子案として入学者選抜制度の改善について説明した。

【八幡会長】

1回の検査で複数の観点で選考する、入試時期は3月上旬、本県の子供たちの学力保障の観点から私学と入試時期を調整することについて示されている。これまで議論した内容がまとまっているかどうかといった観点から御議論いただきたい。

【田中篤委員】

全ての受検生に学力検査を課すということだが、学力検査の内容に関してはどのようなものになるのか。今の時点で考えられているのか、今後の制度設計の中で決めるのか。

【事務局】

現時点では学力検査を課すということに留め、色々な御意見をいただきながらしっかり制度設計する方が良いのではないかと考えている。

【田中篤委員】

一本化することに関しては、中学生の学びを保障するというところで、その方向で進めていただく必要があると思う。今の前期（特色）選抜では学力検査を実施していないことで受検生が出願するケースがあると思う。郡部の学校では、前期（特色）選抜で大半の入学者を確保している現状もある。学力検査を全員に課すことになった場合、県立高校への出願を控えようという動きになる可能性もあるので、その辺りを考慮しながら検討していただきたい。

【音光寺委員】

私立高校でも全ての受検生に学力検査を課しているのので、学力検査を課すことと受検生が減るということはあまり関係ないのではないかと。

【八幡会長】

学力検査の実施については、今、反対論は出てきていない状況かと思う。中身については、パブリックコメントなどでさらに意見を聴きながら具体的な形を考えていくということである。

【牛田委員】

これまでの委員会での意見を踏まえ、スクール・ミッション等を設定した今の時代に合った特色を各学校で出せるような入試、受検生、中学校、高校の職員の負担を減らすという二つの視点を勘案した改善のイメージを出していただけたと思う。資料12ページにある、全ての学校が選考①と選考②を実施するということについては、特色化という意味で検討した中で、ある学校は100%選考①で行うということは選択肢としてあり得るのではないかと個人的には思う。選考①と選考②を必ず行うとする必要があるのかどうかということももう少し検討してもよいのではないかと。全員が学力検査を受けたうえで、配点だけをフラットでやるのが選考①で、理科と数学を重視するのが選考②というようなことであれば全ての学校に課していくことはあるのだろうが、選考②でさらに学力検査をしなくてはいけないということまでとなると難しいと思う。

【大平委員】

配点等が学校ごとに違ってくると中学校の進路指導も大変難しくなるのではないかと。もう少し簡単な形に持って行った方がよいのではないかと。

【八幡会長】

他県の例を見ると、県によって非常に多様化しているところと、県全体である程度統一しているところがある。どの程度を多様性の枠に収めるかという検討は、この提言だけでは終わらない問題である。実際にもっと詰めていく段階で調整されることかと思う。

**【作田委員】**

例えば、理数科や英語科を希望する生徒に対して、その教科の得点を重視するという入試は現在も行われている部分があるので、この点は子供たちもわかりやすいと思う。現在、前期（特色）選抜を実施していない学校では、選考②を実施しないということもあるかと思うが、選考②の実施を任意とした場合、入試の日程を一本化し、特色ある選抜ができる制度であるのに、選考②を実施しない学校が多くなることは、子供の多様な力を評価するという点でどうかという心配がある。

**【夏木委員】**

ある程度のパターンを見て、どこまで評価できるかという方向性を考えた方がよいのではないか。あまりに議論が広すぎて、重視すべきところもばらばらなので、県でどこまで決めるか、そして高校でどこまで決めるかという部分をもう少し具体例を出しながら議論していかないと難しいと思う。ある程度、各論に近いところまで出して検討を重ねた方がよいのではないか。

**【八幡会長】**

特に、選考②のやり方について、事務局で例示は可能か。

**【事務局】**

今回改めて、参考資料として他県で実際にやっておられるパターンをお示しした。この県ではこういうやり方であるということが見えるかと思う。このうちのどこかの県と同じようにするという事ではない。

**【八幡会長】**

どうするかは決まっていないが、他県ではこうなっているという例示を付け加えることは可能か。

**【事務局】**

例示を入れることに支障はないが、どういう書き方をするかは検討する必要があると思う。他県ではどこを共通にしているか、どこを選択にしているかといったことを例示することは考えられる。本県として、こういった形が考えられるということを議論して入れることはできるかと思う。

**【八幡会長】**

夏木委員の御指摘は、具体的なイメージがあればいいということか。

**【夏木委員】**

他県の参考でも構わないが、詳細を示していただき、それに対してこういう課題があるというふうには検討をした方がより良いものになっていくのではないかと。学力重視と特色重視ではアプローチが異なるため、どこかで軸を決めていかないと課題が残る。例示に対して、各選抜の募集の割合や傾斜配点なども加味して検討できるのではないかと。

**【事務局】**

第1回から第5回までの議論を踏まえると、選考②については、例えば、面接や実技検査、自己表現を加えるとか、傾斜配点を行うといった話が出てきたかと思う。学力検査に加えて、特色を出すという中で議論をいただく形ではないかと思う。

【八幡会長】

それを具体的なところまでもう少し踏み込んで書いた方がよいのではないかという御意見であった。

【野口委員】

資料3に記載の内容について、前期（特色）選抜で不合格だった生徒が結局同じ学校に後期（一般）選抜で合格しているということについての心境や前期（特色）選抜で不合格だった生徒へのケアに苦慮している状況については、事実そうだと思うが、よく分からないというのが感想である。資料12ページの改善した制度のイメージについては、選考②の特色重視の技術的なやり方の部分の理解が難しいため、例示をしていただくと分かりやすい。

【音光寺委員】

少し前に戻るが、資料11ページの入試の改善の方向性の四角で囲んだ4点について、この方向性でよいかというところの検討がまず必要ではないか。

【八幡会長】

これまで、各論というにはやや抽象的ではないかという御意見をいただいたところだが、最初の論点である4つの改善の方向性について意見交換が必要かもしれない。

【夏木委員】

入試日程を一本化することは大筋で合意である。入試制度は一度定めるとなかなか変更ができないということを踏まえると、例えば、外国人の受け入れを考慮した別枠の特別試験の制度についても定めておいた方がよいのではないか。

【八幡会長】

特別試験等の可能性を排除する内容にはなっていないと思うが、それが分かるような表現にということかと思う。

【事務局】

今の御意見は、③の多様な能力・個性という中に含まれるかと思うが、そこと一本化のイメージがうまくかみ合わないところがあるかもしれない。代案がすぐには出てこないが、その部分も検討していけるのではないかと思う。

【音光寺委員】

前期（特色）選抜と後期（一般）選抜を統合して一本化するとすれば、一番分かりやすいのではないか。そうすれば、二次募集や追試験などは残ることになる。改善の方向性の4点は非常に大事であり、ベースになる。あり方検討会でも学校の特色を出すと言われていたので、特に高校側としてはスクール・ミッションやスクール・ポリシーをしっかりと反映して特色を出し、それに応じた子供たちを育てるという使命感を持っていただきたい。

【八幡会長】

最重要である改善の方向性の4点については、前期（特色）選抜と後期（一般）選抜を一本化するという形に改善するというところで、御賛同いただいたと考えてよろしいか。

【八幡会長】

次に、3月上旬の実施を明記する形になっているが、これでよいかということについて

議論いただきたい。

**【松島委員】**

二次募集と高校に入学するまでの準備等を考えると、3月上旬がリミットということで、しっかり中学校で勉強できるということも踏まえると、リミットまでという形で3月上旬を示したいと思う。冒頭説明があった3県の周知期間を踏まえると、3年間はよいと思った。

**【八幡会長】**

例えば、3年間程度と書くことは可能か。

**【事務局】**

この委員会の提言として入れていただくことは差し支えない。

**【八幡会長】**

これまで周知期間が重要であるという意見が出ているので、3年間程度というぐらいは入れた方がよいと思う。

**【本田委員】**

ここで関わってくるのが今の小学6年生かと思う。中学入試を見ると、保護者の考え方やニーズは非常に多様化している。中学校だけに情報提供するのではなく、小学校を含めて十分な情報提供をしていただけるとありがたい。

**【八幡会長】**

「幅広く」「十分な」といった言葉を付け加えていただいてもよいかと思う。

**【牛田委員】**

周知期間について、私も3年程度は必要であると思う。大きな変更になりそうなので、今年度提言がまとまり、令和5年度に事務局で制度が決まるとすれば、今の小学5年生の児童から適用というイメージが一番適切かと思う。少なくとも3年間、できれば新しい制度が適用される子供たちが中学校に入学する前に決まるというぐらいのスケジュールがよいのではないか。去年と今年は新型コロナウイルス感染症の関係で2月に入試を実施しているが、大学入試の佳境であり、祝日との関係で採点ができる日も限られており、高校入試を運営する側としても厳しい状況。中学校の学習をきちんと終えるという意味でも、3月上旬の実施であれば対応できると思う。

**【田中万里委員】**

3月上旬は、時期としてはベストだと思うが、3月上旬に卒業式を行うところもあるので対応できるのか心配している。子供の学習保障を第一に考えるということについては、やはり私立高校も併せて入試時期を調整することが必須である。その後、調整できる方向になったのか。

**【作田委員】**

公立高校の合否の結果次第で丁寧な指導が必要になることがあることから、公立高校の合否の発表前に卒業式を行っている。郡部も市内も大体同じ日に卒業式を実施しているが、小学校の卒業式と合わせて行うところは3月中旬以降に実施するところも一部ある。

【池田委員】

私立高校全部で相談しているわけではないが、前期（特色）選抜が入ってきたことで1月にずれ上がったので、私学の入試を2月1日あたりに持ってくることは可能ではないかと校長会では伝えている。荒玉地区の入試については、福岡県との関係でやはり1月に実施されると思う。それ以外の市内と八代地区は2月1日あたりに下りてくることは可能だろうと個人としては判断している。

【足立委員】

今度の変更については、中学校の先生方が理解できるようにしないと子供の進路指導ができないのではないかと。中学校の先生方への配慮が必要ではないかと思う。

【八幡会長】

周知期間にも関わるかと思う。

【原委員】

会長のおっしゃるとおり周知期間の問題が一つある。今の前期（特色）選抜がどちらかという选考②、後期（一般）選抜が选考①になって、日程が同じになると理解するとよいのではないかと思う。今後各論が出てくると、中学校でも保護者や生徒に周知徹底していくことが課題になってくると思う。

【大平委員】

保護者からすると、進路を早く決めたいという気持ちがある。周知期間を3年設けるといことで少しは解消できるかもしれないが、やはり私立高校を希望する生徒が今後は増えていくのではないかと思うが、どう考えているか。

【八幡会長】

教育委員会側としてはいかがか。

【事務局】

そうなることも予測はできる。あり方検討会の中で、高校の魅力化を進め、入試時期に関わらず県立高校を選んでいただける体制をつくるとともに、中学校での学びをしっかり身に付けて高校に入っていただくということで、最終的には熊本県の将来や未来の教育のあり方に関わる部分になると考えている。私立高校との調整は当然必要となっていく。

【足立委員】

一括りに高校と言っても、普通高校と専門高校があり、それぞれに違いがあるのではないかと。専門学科と普通科の中での入試のあり様は、進路指導にも絡んでくるが、重要になると思う。

【八幡会長】

案の中で普通高校あるいは専門高校に触れた部分が見当たらなかったため気になっていたところである。今後検討が必要と考えられることの中に、例えば、普通高校、専門高校それぞれに相応しい入試のあり方の検討という一文を入れてはどうか。

【吉永委員】

11ページに示されている改善の4つの方向性については賛成だが、周知期間については生徒や保護者の不安を解消するために必要だと思う。3月上旬の実施について、入試を

3月初旬に実施し、卒業式が10日前後という初期の頃が良かった。この制度によって定員割れがどうなっていくかは少し心配している。各学校が魅力を打ち出して、校長先生を中心に生徒募集の努力をされると思うが、どこまで学校の努力で解消するのかはやってみないとわからない。子供や保護者は早く進路を決めたい心情がある。一本化すると、チャンスが1回しかないのを早めに決めてしまいたいという気持ちで私立高校の受検が増える可能性があるのではないかと思う。細かな制度設計の中で解消できるような案を今後作っていただきたい。

【八幡会長】

特に、郡部の高校における対応についても今後検討が必要と考えられることの中に付け加えていいのではないか。

【田中万里委員】

郡部から都市部の県立高校に合格した場合、寮や下宿を見つけるなどの準備が必要である。入試時期を3月上旬にした場合、中旬の合格発表後から準備に取り掛かるので、郡部から入学する子供たちには、高校側から住まいの紹介などを充実していただきたい。

【八幡会長】

運用の面で、子供たちが様々なことで問題を抱えないようにということかと思う。その点はどこかに書き込んでいただきたい。

【音光寺委員】

12ページの<改善した制度のイメージ>では、選考①を先に行い、次に選考②を行うと説明があったが、他県をみると、学校ごとにどちらを先に行うかが決められている状況もある。校長先生の意向もあるので十分検討していただきたい。個人的には、特色選抜が先で、次に一般の選抜がよいのではないかと思う。

海外から帰国する生徒の選抜は今後増えてくると思う。菊池市でも日本語指導をしている子供たちが何人かいる。今の制度では追い付かない状況もあるので、配慮する制度が必要ではないかと思う。一番の課題は、長期欠席者が増えていること。長期欠席者に配慮した入試は重視される分野ではないかと思う。特色選抜の中でこの部分を打ち出していただきたい。誰もが安心して受検できる体制を県立高校の入試で確立していただければ、皆が納得する制度になるのではないか。

【八幡会長】

帰国生徒や長期欠席者への対応については、今後検討が必要と考えられることに追加する工夫ができるのでないか。

【牛田委員】

現行の後期（一般）選抜にも帰国子女への対応等が盛り込んである。年度途中で帰国する生徒もいるが、学校ごとに転入考査を行っているので、今の制度をそのままある程度踏襲すれば対応できると思う。

【八幡会長】

少し文言を変えとしても、改善の方向性の4点については重要であるという認識かと思う。<改善した制度のイメージ>は、必ず選考①を先にやっているようなイメージがあ



るが、選考①と選考②の選抜の順序は検討が必要との記載がある。先ほどの例示が必要であるとの意見も含めて、選考①と選考②の順序が逆になったパターンも例示しておいてよいのではないかと。

**【田中篤委員】**

一本化することで、学校としては一つだけの入試になるので、それを補う形として二次募集が大きな意味を持つてくることが記載されていた。今後の制度設計の際には、二次募集の選考についても各学校の特色を周知するような形を配慮してほしい。

**【八幡会長】**

まとめに向けて、今後の進め方を提案したい。今後は、骨子案に本日の委員会では出された修正提案や補足を入れ込んでいくことが必要である。この骨子案をもとに、提言書をまとめる作業については、会長である私が事務局と協議しながら行い、今後は書面にて委員の皆様方に報告し、意見を伺っていくという形にさせていただけないかと考えている。最終案の取りまとめについては、会長及び事務局に御一任いただけないか。異議がないので、このような形で進めさせていただく。今年度中に教育長に協議結果を報告することを目指して、提言案の作成を進める。再度確認になるが、それでよろしいか。(はい。)

**【事務局】**

今後は書面にて提言案の確認や御意見を伺って参る。これをもって第6回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会を閉会する。

以上